三次市行財政改革推進審議委員会議事要旨

日　　時：令和元年１０月１６日（水）１４時～１６時
会　　場：三次市役所本館６階６０１会議室
出席委員：橋本会長，堀江副会長，町野委員，小川委員，安藤委員，藤田委員
　　村山委員，早川委員
欠席委員：平岡委員，冨野井委員，岸田委員，法林委員

議事
第４次三次市行財政改革大綱及び推進計画（案）を踏まえた市の取組の方向性について

【事務局説明】
・第３次三次市行財政改革推進計画平成３０年度取組実績及び平成２７～３０年度取組総括について
・第４次三次市行財政改革推進計画（案）について

【会長】
・今年３月にまとめた第４次大綱に基づいて，三次市として具体的に取り組んでいく内容をまとめたものが推進計画である。審議委員会としては大綱について提言を行ったが，その大綱に基づく推進計画なので，今回の審議委員会では事務局から説明を受けるというのが趣旨である。
・行政として特に意識的にこう取り組んでほしいとか，こういうことが大事といったご意見を委員の皆さんからいただきたい。
【委員意見】
・合併当時は補助金を活用して地域の取組ができていた。７０歳を超えたが今や若手になってしまい，いくら補助金をもらっても労力がなく，対応できなくなってきた。定年を迎えた人も地域に帰ってこない。補助制度も必要だが，人的な支援もないと地域を守っていけない。
・「公務員は公僕」という言葉も死後になってきた。合併前は住民の悩み事を役場で相談すると，職員が専門知識を付けて対応し，解決していた。最近は相談に行くと「予算がない」と言うが，予算がないのなら取りに行けばいい。人事異動で長年同じ仕事ができないとは思うが，与えられた仕事に対してエキスパートであってほしい。
・地域おこし協力隊が地域で活躍している。地域を理解してもらい，仲間になってもらいたいので，自分たちから声をかけている。任期があり，新たに配属されるかどうかわからないが，地域おこし協力隊には地域に根づいてもらいたい。地域での人材育成も必要だが，外部人材も増やし，つなげていく必要がある。
・廃校になった立派な校舎がそのままになっている。時々イベントなどで使っているが，活用方法を何年も議論している。いろんな人の意見を聞いてみたい。
・給食調理場の検討の進め方に問題があることをこれまで話題に出していたが，その後，委員会が立ち上げられ，きちんと検討されるようになったのは良かった。委員会のメン

バーなどを問題視する声もあるが，ようやくスタートしたところで，期待と懸念とがせめぎあっている状態ではないか。財政的に厳しい中で，子どもたちの給食を作っていくという検討なので，色々厳しい話になる。会議の透明性を確保し，関心や関わりのある人たちにどう伝えていくかが問われている。

・東日本で台風による被害が出ている。三次は何事もなく冷静な目でニュースを見たが，「何でもっと早く対応できないのか」という歯がゆさがあった。昨年７月の浸水被害などを思えば，よそ事ではないという不安はある。安全の確保，自分の体・命は自分で守って下さいという言葉が，どれだけテレビで流れてきたか。三次市でもハザードマップや自主防災組織を整備しているが，あくまで模擬なので，実際の対応を頑張ってほしい。

・行財政改革に関わって７年くらいになるが，推進計画案は良いものになっている。今までの行政のやり方は連携があまりなかったが，少しずつ改善している。

・誰かのせい，行政のせいにするのではなく，自分たちで責任を持ち，自由度を高めるという雰囲気になってきている。補助金は，今まで通りの出し方ではなく，若者や挑戦，定住を支援できるような自由度の高いものにしてはどうか。審査会を開き，プレゼンテーションして，事業計画をきちんと話す。支援してもらいたいのであれば，努力して事業計画を作ることが大事である。ワクワクする，チャレンジしてみようと思えるような補助金。市の財源がないのであれば，今まで通りの補助金を精査してやればよい。

・計画の中に「対話」という言葉が沢山出てくる。合併前の小さな町村単位では，まさに対話，コミュニケーションが頻繁にあったのだと思う。合併が悪いわけではないが，都市の規模が大きくなるほど，対話が疎遠になってくる。また，具体的にどこを対話の場と認識しているかが見えない。「対話を増やす」とあるが，どうやって増やすかも示されていない。対話をベースにしているのなら，もっと具体的な記述があればよいと感じた。地域応援隊として市職員が地域に出て行く良い仕組みを持っているのなら，もっとこれを使うことで対話の機会が増えてくる。

・行財政改革と聞いて，一番必要なのは市職員の意識を改革することだと思う。そこが改革されないと，住民との認識の差は埋まらない。

・お金の使い方が，まさに選択と集中にかかってくる。本当に何が大切なのか，目標設定になるべく近づけるためにどうすれば良いかを，市役所だけでなく住民と一緒に考える機会をいかに沢山作るかが大切だと思う。ふるさと納税で，大阪府の泉佐野市が話題になったが，全て悪なのか。やったことが良いのか悪いのかは分からないが，市民のために動いたこと自体は決して悪いことではない。

・市民協働のまちづくりは大賛成だが，優秀な人材が市職員になっているはずなのに，イニシアティブが見えない。主導権を握って能力を発揮してほしい。市民に対して遠慮が感じられる。

【会長】

・面倒だと言われてもやるべきことはきちんと手順を踏むという基本の部分が大事である。そうでないと一緒にやろうと言ってもらえない。その辺りが三次市にはさらに良くなってほしい。すごく価値のある話をいただいた。

・三次市の責任は，三次市民だけではなく，西中国山地周辺にも関わってくる。三次市が

置かれている状況は単純ではないが，やるべきことはある。それを実行できる行政を作っていく。それこそが行財政改革の切り口ではないか。この先安心できる状況ではないからこそ，今やるべきことをやるために，市役所と市民の関係，市役所に何をどう期待していくかについて，ご意見をいただきたい。

【委員意見】

・地域を出た子どもたちが，どうしても帰りたいと言って，しっかり技術を身につけて帰ってきた。一生懸命頑張って我が社で働いてくれている。都会と比べれば給料に差があるが，地域で皆と一緒に楽しく過ごしたい，結婚を機に，奥さんを連れて帰ってきたいという目的をもってくれている。この地域をどうしたいかをしっかりと責任世代が議論した結果,「やってもらったことを子どもたちにやってあげたい」ということに至った。市長マニフェストや第４次の推進計画に「地域資源の活用」とあるが，資源とは何かを考えたら，農地も資源になる。耕作されない農地が増えていく中で，どう活かしてやるか。農業で色んな働き方ができると思った。現在，遊休農地を活用した機能性食品の生産に取り組んでいる。Ｉターンや帰ってくる子どもだけでなく，いろんな人がワクワクする地域を作ることで，小さな町からイノベーションしていきたい。そうすることで，にぎやかな過疎になり，存続していける地域になる。

・自分が住んでいる地域も過疎で，まさにギリギリのところにきている。今まで通りに子ども会や学校のＰＴＡ行事ができない。今までは人数が少ないながらもどうにか頑張っていたが，今までのやり方では限界で，地域行事なども同じである。皆さんの話を聞いて思ったのは，選択と集中はお金だけではなく，人間もしていかないといけない。人数が少なくなってくると，物事を回すことだけでいっぱいになる。必要なのはやはり対話である。とにかく言葉にして，ビジョンとして形にしないといけない。そういう時期にみんながきている。対話のベースはある。みんなが危機感を持っている中で，どうやって選択と集中していくかを議論しないといけない。

・やめる責任も必要。何故やめるかも大事だが，人や時代のせい，人がいないとかではない。今をどう生きるかという責任だと思っている。

・計画を立てる段階で，人口の動向を見るのが一番大切ではないか。長期的な動向を見て，インフラの長寿命化なども必要である。

・人口を増やそうと思っても，今３０代の人が生まれるわけではない。高齢者が元気で活動できる力が必要。高齢者も前向きに元気で過ごす。もう今は年代ではない。みんなで頑張る。小さな活動の輪が広がって，将来の子どもたちに引き継ぎ，子どもたちが「自分もあんな元気なじいちゃん，ばあちゃんになりたい」と思うような地域になればよい。

・人口減少は日本全体の話。３０代の人を今から作るわけにはいかないので，今から生まれてくる子どもたちに頼るしかない。子どもが育った地域でこれからも生活していくような社会を作りたい。そのために一番大切なのは，今の大人が楽しく，元気に生活していくことである。日々を楽しく生きることに一番の価値を見出して，その景色をいかに次の世代に見てもらうか。東京の生活が楽しい生活だとは思わない。人口５万人は簡単に維持できないが，楽しいと思える環境を繋いでいくうちに，違うライフスタイルが出てくるのではないか。

・施設の撤退の話がある。外部から入ってきたものが，手を引いて三次から出ていくのは

少し寂しい。

【会長】

・本日いただいたご意見は，三次市の未来のために，また市民の期待に応えるために行財政改革に取り組むことに活かしてほしい。こういう議論ができるのが三次市の良いところである。未来への欲をもって，もっと良い地域にしていけるよう頑張ってほしい。